

〇〇市立〇〇小学校 第 6 学年 図画工作科学習指導案

平成 18 年〇月〇日（〇）第 3 校時

平成 18 年〇月〇日（〇）第 3・4 校時

活動場所 多目的ホール及び図工室

指 導 者 〇 〇 〇 〇

1 題材名 墨 de 和ごころ ～日本の美術～

「墨のよさを味わおう」（鑑賞）

2 題材について

（1）児童の実態

この時期の児童は、作品などをはじめは、「好きだ。」「おもしろい。」「不思議だ。」「さびしそう。」というように主観的に見る傾向がある。そのことがきっかけになって見方を変えたり深く見たりしながら、やがて、その美しさを感じ、味わうようになる。

本学級の児童の多くは、毎時間ごとの最後に行うミニ鑑賞パーティーを楽しみにしている。友だちの作品の技法、色の使い方、構図のおもしろさなどを自分なりに感じ、味わっている。中には、自分の作品に自信がもてず、「ぼくは下手だから。」と言う児童もいるが、そのような児童も友だちのよさを素直に認め、作品の一部や作品全体の構図のおもしろさや色の美しさなどを自分なりに味わっている。

6 年生になってからの鑑賞は、7 月に題材名「色で感じてわたしの想い」を行った。この題材は、色に対しての関心を深めていくことをねらった学習である。はじめに、線だけで表現したゴッホの「アルルの寝室」を見て、その印象を話し合った。次に、イメージカードに示されたテーマの感じになるように、線だけで表現した「アルルの寝室」に彩色した。そして、彩色された「アルルの寝室」から受けるイメージや表現の意図を話し合い、色に対しての関心を深めていった。この学習によって、児童は色で作品を見ていく楽しさや色を与えるイメージを感じ取り、味わうことができた。また、この経験は今後の学習に生かすことができると考える。

児童のほとんどは、墨は文字を書くだけのものであると思っている。そこで、本題材では、墨を絵の具代わりに使い、筆や筆以外の描画材料の扱い方を工夫して、墨で描く楽しさ、墨の濃淡のおもしろさ、濃い墨の強さ、薄い墨のにじみの美しさなどを味わわせたい。そして、日本美術に目を向け、水墨画で大成した雪舟の作品を鑑賞して、水墨画への関心を深めるとともに、いろいろな見方、感じ方のよさを認めていきたい。

（2）題材の意図と可能性

本題材では、墨のいろいろな技法をクイズ形式で知り、実際に新しく知った墨の技法を試したり、自分で考えた技法を試したりしながら、墨で描くことを楽しむ。次に、

自分が試した技法や墨のよさを生かして絵を描く。そして、墨だけで描いた絵のおもしろさや、表現の意図を話し合い、水墨画で大成した雪舟の作品「秋冬山水画」を鑑賞することで、水墨画に対する想いや見方、感じ方を深めていく学習である。まず、墨を使って遊んだり、絵を描いたりすることで、墨の持つ濃淡の美しさ、薄めない墨の強さ、薄い墨のにじみの美しさなどを感じ取らせていきたい。

本題材を指導するに当たり、第1次の活動場所は「多目的ホール」、第2次の活動場所は「図工室」を設定した。

第1次では、墨を使って描くことを思いきり楽しめたいと思い、広いスペースが確保できる「多目的ホール」を設定した。児童は、これまでに4つ切り以上の大きさの紙に描いた経験がないので、大きな紙（90 cm× 180 cm）に気持ちのおもむくままに描く楽しさを体験させたい。

第2次では、一人一人が墨と向き合い、自分の世界にひたれるように図工室を設定した。

（3）学習指導要領上の位置付け

本題材は、第5学年及び第6学年の内容「B鑑賞」の「（1）作品などを鑑賞し、それらのよさや美しさに親しむようにする。」に対応したものである。中でも、「イ、我が国や諸外国の親しみのある美術、暮らしの中の作品などのよさや美しさ、表現の意図などに関心をもって鑑賞すること。」によって、目標（3）「作品などを進んで鑑賞し、そのよさや美しさなどを感じ取り、感性を高めるとともに、それらを大切にするようにする。」に迫ろうとしている。

そこで、私はこの題材を通して、日本美術のよさを味わい、自分の感じ方や見方を広げ、白黒の世界に対する感覚や感性を高めたいと考える。

3 目標

（1）墨を使って描くことのおもしろさに気づき、積極的に表現活動を楽しむ。

【造形への関心・意欲・態度】

（2）墨の持つ特徴を生かした活動を思い付いたり、試したりする。

【発想や構想の能力】

（3）墨の濃淡の美しさ、墨を薄めない強さ、薄い墨のにじみの美しさなど墨のよさを効果的に表す。

【創造的な技能】

（4）友だち作品や、雪舟の「秋冬山水画」のよさや美しさを感じる。【鑑賞の能力】

4 指導計画（3時間扱い）

- | | |
|---------------------------------|-------|
| （1）墨との出会いを楽しみながら、いろいろな技法を試す。45分 | } 第1次 |
| （2）墨の技法を生かして、絵に表す。50分 | |
| （3）友だちの作品のよさや美しさを味わう。15分 | } 第2次 |
| （4）雪舟の「秋冬山水画」のよさや美しさを味わう。25分 | |

5 他校種における関連した題材との関連や系統性について

	小学校	中学校	高等学校
共通点	「墨 de 和ごころ」 日本美術の魅力を伝え、見方を深める。 キーワード : 墨・日本美術 共通鑑賞作品: 「松林図屏風」 長谷川等伯 「秋冬山水図」 雪舟		
ねらい	日本美術のよさ美しさにふれる、楽しむ	日本美術のよさや美しさを理解し、愛情を深める	日本美術の歴史と表現の特質を学ぶ
アプローチの仕方	造形遊びや墨のよさを生かして絵を描くことで墨に親しむ 感覚的・触覚 ⇔ 知的・視覚	屏風を体感したり、表現(ミニ屏風作り)を通し、関心を深める	日本美術の流れを学び、日本美術を理解する 知的・視覚
主となる鑑賞作品	「秋冬山水画」	「風神雷神図屏風」	「鳥獣戯画」
活動内容	①墨で遊ぶ ②墨の技法を生かし、絵を描く ③日本の美術を鑑賞する	①「風神雷神図屏風」を鑑賞する ②「風神雷神図屏風」を墨で模写し、ミニ屏風をつくる ③水墨画と西洋絵画を比較し、日本美術を考える	①「水墨画とは何か」歴史をたどって学習する ②水墨画を模写する ③模写した「鳥獣戯画」を鑑賞し、ストーリーを考える
対応する教科書の内容	開隆堂 図画工作 5・6 下 「墨のうた」 「芸術家の心にふれて」	開隆堂 美術 2・3 上 「水墨の世界」 開隆堂 美術 2・3 下 「日本画の色」「仏像物語」 「美術の流れ」	日文 美術 I 「美術史年表」

6 題材の評価規準

	ア 造形への関心・意欲・態度	イ 発想や構想の能力	ウ 創造的な技能	エ 鑑賞の能力
題材の評価規準	墨を使って描くことのおもしろさに気づき、積極的に表現活動を味わおうとする。	墨の持つ特徴を生かした活動を思いついたり、試したりする。	墨の濃淡の美しさ、墨を薄めない強さ、薄い墨のじみの美しさなど墨のよさを効果的に表す。	友だち作品や、雪舟の「秋冬山水画」のよさや美しさを感じ取り、味わう。
学習器具活	①筆以外の描画材料を進んで集めようとしている。	①墨、水、いろいろな描画材料を組み合わせなが	①墨と水の量を工夫したり、筆の運び方を工夫し	①自分や友だちの活動のおもしろさや墨のもつお

体動的に評価し、価値を認める	② 墨で描くことに興味をもち、楽しんで活動している。 ③ 墨のよさを生かしたいろいろな表し方に関心をもち、進んで活動している。	ら、どんな表現方法があるか思いをめぐらせ、試す。 ② 提案 1、2 の活動をもとにしてどのような技法を使うと自分のイメージにあった作品ができるのか考えている。	たりしながら墨のもつ素材のよさを生かして効果的に表す。	もしろさ、美しさを感じ取る。 ② 自分や友だちの作品をみることによって、墨がもつ素材のよさ、美しさを感じ取る。 ③ 雪舟の「秋冬山水画」の鑑賞を通して、水墨画の見方、感じ方を深める。
----------------	--	--	-----------------------------	---

7 準備

教師：レジャーシート、刷毛、カップ、和紙、新聞紙、ぞうきん、参考作品

雪舟「秋冬山水図」のコピー、模写用の絵、ふりかえりカード

児童：墨汁、筆、新聞紙、ぞうきん、たわしなど墨汁を使って描いてみたい身近材料

8 展開

	児童の活動	指導上の工夫 (○) ☆評価 観点【】方法 ()	時間
事前	◇ 本題材への興味・関心をもつ。 ◇ 材料集めをする。	○参考作品（濃淡の違い、かすれ、にじみ、たらしこみなど）がどのようにして描かれたものであるか、また、どのような描画材料で描かれたものかクイズ形式で答えさせることで興味をもたせる。 ○どんな描画材料で描いたのか使った描画材料を提示し、描画材料集めへの意欲を高める。	
導入	1 事前の活動を想起する。	○墨を使ってどんな活動ができそうか事前に提示した参考作品をもとにイメージをふくらませる。	23
展	提案 1 墨 de 和ごころ ～墨を使ってどんな活動ができるかな。 墨で思いっきり遊ぼう！～		
	2 教師が用意した大きな和紙の上に、いろいろが技法を試しながら、気持ちがおもむくままに表す	○提案 1 に使う時間（20 分間）を知らせることで、見通しを持って活動できるようにする。 ○体全体を使って活動してる児童を賞賛し、ダイナミックな表現活動を楽しませるようにす	

開	ことを楽しむ。 「楽しそうだな。」 「はやくやりたいな。」 「こんな大きな紙に描くのは初めてだよ。わくわくするな。」  刷毛を使って、思いっきり描いてみよう。  ストローを使って墨を広がらせてみよう。	る。 ○自分で考えた新たな技法を使って活動している児童を賞賛し、活動への意欲を高めるとともに、他の児童へ活動が広がるように支援する。 ○墨汁をこぼしたときにすぐふけるように、一人1枚ぞうきんをもたせておく。  霧吹きを使って描いたらどうなるかな。  薄い墨はにじんでやさしい感じになったよ。  たわしを使って描いてみよう。上から筆を振って、墨をとばしたら、勢いがでたよ。 ☆筆以外の描画材料を進んで集め、表し方に関心をもっている。【造形への関心・意欲・態度】 (描画材料の観察) ☆墨で描くことに興味をもち、楽しんで表現活動を味わおうとしている。 【造形への関心・意欲・態度】 (態度の観察、ふりかえりカード) ☆墨、水、いろいろな描画材料を組み合わせながら、どんな表現方法があるか思いをめぐらせ、試している。【発想や構想の能力】 (態度の観察、ふりかえりカード、作品) ○片付けに使う時間を知らせ、また、片付け用の音楽をかけることで、見通しを持って時間内に片付けられるようにする。	7
展			
開			

		○作品や床においておき、後の用具はすべて室内の隅に置かせる。	
	提案2 鑑賞パーティーをしよう！ ～友だちはどんな活動をしたのかな。 友だちの活動のよさを見つけよう！～ 3 各グループの活動を見合う。 	○作品に題名をつけることで活動に対する思いを温める。 ○それぞれの活動へのこだわりを発表させる。 ○児童の活動のよいところ、おもしろいところ、工夫したところを伝え合うようにする。	10
ま と め	4 活動をふりかえる。 5 次時の活動を知る。	○自分の活動や鑑賞パーティーをしての活動の感想を書かせることで、本時の活動を振り返らせる。 ☆自分や友だちの活動のおもしろさや墨のもつおもしろさ、美しさを感じ取り、味わおうとする。 【鑑賞の能力】 (態度の観察、発表、ふりかえりカード) ○次時は図工室で本時の活動を生かして、一人一人が絵を描いていくことを知らせる。 ○参考作品を提示することでイメージをふくらませる。 ○墨で描いてみたいもの（昆虫や花など）の資料を集めておくように知らせる。	5
導 入	6 前時の活動を想起する。	○前時の活動で楽しかったことや、新しい発見をしたことを発表させ、活動への意欲を高めるようにする。	50
展	提案3 墨のおもしろさを生かして絵を描こう！ 7 自分のイメージを大切に にして、墨で描きたいもの の絵に表す。	○墨のおもしろいところを発表させることで確認する。 ・濃淡の出せるおもしろさ ・濃い墨の強い感じ ・薄い墨のにじみの美しさ	

開	 いろいろな薄い墨を組み合わせたら、やさしい感じになったよ。  濃い墨とかすれで驚の強さをだしてみよう。 8 協力して後片付けを行う。	・かすれのおもしろさ など ○自分で描きたい資料（昆虫、動物、花など）を技法や墨の濃淡を工夫しながら模写したり、さらに、自分のイメージでかき加えさせたりする。 ○机全体に新聞紙を敷かせるとともに各班で1枚ぞうきんを用意させる。 ○提案3に使う時間を知らせることで見通しを持って活動できるようにさせる。 ○早く終わった児童には、時間内に何枚でも描いてよいことを知らせる。 ○完成作品には、消しゴムで作った落款印を押印することで水墨画の完成感を高める。 ☆墨のよさを生かしたいろいろな表し方に関心をもち、進んで活動を楽しんでいる。 【造形への関心・意欲・態度】 （態度の観察、ふりかえりカード） ☆提案1、2の活動をもとにしてどのような技法を使うと自分のイメージにあった作品ができるのか考えている。【発想や構想の能力】 （態度の観察、ふりかえりカード） ☆墨と水の量を工夫したり、筆の運び方を工夫したりしながら墨のもつ素材のよさを生かして効果的に描くことができる。【創造的な技能】 （態度の観察、作品） ○片付けに使う時間を知らせ、また、片付け用の音楽をかけ、見通しをもって時間内に片付けられるようにする。 ○そのあと鑑賞パーティーをすることを知らせ、作品以外は机の下にしまわせる。
	提案4 鑑賞パーティーをしよう！ ～友だちの作品のおもしろさや気に入ったところを見つけよう～ 9 お互いの活動を見合う。 ○作品のそばにネームマグネットを置かせ、誰の作品かわかるようにする。	15

	 このカブトムシは本物そっくりで動き出しそうだね。  このアロワナは薄墨をうまくつかって描いているね。	○ BGM をかけることで静かな雰囲気の中で鑑賞できるようにする。 ○ 墨のおもしろさに目をむけて鑑賞するように言葉かけする。 ○ 友だちの作品のおもしろさやよさを発表させる。 ☆自分や友だちの作品をみることによって、墨がもつ素材のよさ、美しさを感じ取り、味わおうとする。 【鑑賞の能力】 (態度の観察、発表、ふりかえりカード)	
	提案 4 雪舟の作品を鑑賞しよう！ 10 雪舟の「秋冬山水画」から、感じたことや思ったことを発表する。	○ 雪舟の自画像を提示し、クイズ形式で画家の名前をあてさせる。 ○ 何を描いたのか、どんな思いで描いたのか、どうやって描いたのか等考えたことを発表させ、いろいろな見方や感じ方があることに気付かせる。 ○ 雪舟が活躍した時代や、水墨画の始まり等を話し、自分なりの思いが深まるようにする。	25
まとめ	11 本時の学習をふりかえる。	○ ふりかえりカードに記入することで、各自が自分の見方や感じ方をもてるようにする。 ☆雪舟の「秋冬山水画」の鑑賞を通して、水墨画の見方、感じ方を深めようとしている。 【鑑賞の能力】 (態度の観察、発表、ふりかえりカード)	

9 児童の感想から

雪舟の水墨画を鑑賞して

- 雪舟の絵は、墨の薄さや濃さをうまく使っていて、僕には表せないほどのすごさでした。
- 薄いところや濃いところがあって、空も濃い薄いで表現したり、奥の方まで見えたりするので、奥行きがあるし、本当の天気はわからないけれど、色の雰囲気でなんとなく天気がわかるのがいいと思いました。
- 墨で描いていないようなところでも、よく見るとちゃんと墨で描いてあるのがすごいと思いました。細かいところまで1つ1つ集中して描いたんだなと思いました。
- 山を薄く描いて霧があるようにしたり、木の枝や葉っぱを一枚一枚描いてあってすごいなと思いました。かすれているところも美しいです。
- 雪舟はとても厳しいところにいて、もうすぐ建物にたどり着くという気持ちで描いたのだと思います。
- 雪舟は、山が崖が好きだったと思います。だから、この絵を描いたのだと思います。なんとなく、風を感じます。
- 筆と水と墨だけで、あんな細かく美しい絵をよく描けるなと思いました。僕も、水墨画を描いてみたけれど、にじんでしまったり、まちがったりしてしまい、うまく描けませんでした。雪舟は、本当にすごい人物なんだなと改めて思いました。

この学習を通して

- 普段は墨に興味はなかったけれど、この勉強をして好きになりました。たった1色でも、薄めたりすることでいろいろな気持ちが伝えられるんだなと思いました。墨のことをもっとよく知りたいです。
- 私は、墨の濃淡について学びました。とても楽しかったです。学校だけでなく、家でも水墨画を描いてみたいです。
- 墨は、濃さを自由に変えることができ、絵を描くときはとても便利だし、楽しいです。墨の絵を好んでいる人はあまりいないと思うけれど、雪舟みたいなあんなすばらしい作品が描けるなんて感動しました。水彩画や油絵とかの方が人気があると思うけれど、水墨画もとてもいいと思いました。
- 墨はいろいろな感じがするんだなと思いました。たたくとはねている感じがして、薄くするとやさしい感じがして、濃くすると元気のある迫力のある感じがしてすごいです。
- 今まで、絵は、絵の具や鉛筆などでしか描いていなかったけれど、墨と水だけで描いてみると、絵の具とは違う濃淡やにじみの美しさがよくわかりました。家に帰ったら、他のたくさんのもので描いてみたいです。
- 墨では、字を書くしかできないと思っていたけれど、墨のよさを生かして絵を描けたのでとてもよかったです。特に、墨のにじみはとてもきれいでした。
- 初めて、墨で絵を描いたけれど、いろいろな技法を試したり、思いついたりしていろいろな工夫ができたと思います。とても楽しかったです。

10 実践の成果と課題

○実践の成果

- ・大きな紙に体全体を使って墨の技法を楽しむことで、児童の心が解放され、発想の広がりが見られた。また、墨の技法を楽しんだ後の作品に題名をつけ、廊下に掲示することで活動に対する満足感を高めることができた。
- ・第1次の活動では、活動の観察とふりかえりカードの中に、ウェビングマップを取り入れたことで、児童それぞれの活動の広がり、深まりが見え、評価に役だった。
- ・第2次の活動では、墨の技法を生かして白黒コピーした昆虫や花を模写することで、児童一人一人が墨と向き合うことができた。また、白黒コピーしたものを模写することは、墨の濃淡の使い分けがわかりやすく、写實的に描きたいという児童の欲求を十分満足させることができた。さらに、第1次の活動を体験したことで、にじみやかすれなどの技法を取り入れ、作品に個性を加えることができた。
- ・墨で遊ぶ、水墨画を描くなどして墨に親しんでから、雪舟の「秋冬山水画」を鑑賞したことで、水墨画に対する児童の興味・関心を高めることができた。また、鑑賞する視点は特に設けなかったが、それまでの体験が生き、墨の技法、描いてあるものの意味、雪舟の気持ち、自分と比較して見るなどいろいろな視点から水墨画を鑑賞することができた。

○今後の課題

- ・表現活動と鑑賞との関連を図った効果的な指導の在り方とその工夫。
- ・児童の興味・関心を高める題材の工夫及び鑑賞資料の充実。

10 まとめ

小中高の教員が各自の授業実践や日々の悩みなどを話し合える本講座は非常に貴重で有意義なものであった。毎回、中高の先生の専門的な話は興味深く、学ぶことが多かった。また、小中高の系統性を踏まえ題材開発をしていくことは、自分自身の専門性を高めることができたとともに、非常に楽しいものであった。今まで、小学校内での学年の系統性について考えたことはあっても、小学校で経験したことが中高でどう生かされていくのか考えたことがなかった。しかし、本講座を通して、系統性の重要性を再認識し、小学校では、広くいろいろな体験をさせたいと考えた。そのような体験を通して、図画工作科の楽しさを十分味わわせたい。そして、その楽しさをもって中学校・高等学校での専門的な知識・技能の習得ができれば、より児童・生徒の世界が広がるのではないかと考えた。

図画工作科は他の教科と比べ準備が大がかりなものが多い。しかし、こちらが時間をかければ、それだけのものを児童はかえしてくれる。児童にとってより魅力的な題材開発、また、児童の活動をより広げられる指導の在り方が今後の課題である。

本講座を通して学んだことを、少しでも子どもたちにかえしていけるよう、自己研鑽を積んでいきたい。